

学校運営について

子どもが安心して教育を受けられる環境を

梶田進議員は、12月5日、日本共産党議員 善と戸別受信機配布のあり方などについて、団を代表して一般質問を行い、学校運営の改 次のように町当局の見解をたきました。

梶田進議員質問 近年、少子化、核家族化、地域環境の変化、教職員の大量退職時代を向かえ、教育現場では様々な問題が起きています。特に、教職員の勤務状況は厳しく、それに伴って様々な事件・事故がおきています。学校は子どもが安心して、教育を受けることができる環境が必要である。

町内小中学校の職員室の灯りが夜遅くまで点いているが、教職員の勤務実態はどのようなになっているか。

答弁 勤務の多忙については、学校間格差、個人差、時期的なこともあるが、遅くまで学校で仕事をしている現状がある。

平成23年度4月では、勤務時間を超える1箇月の在校時間の平均は、小学校で1人あたり約68時間、中学校で1人あたり約76時間である。

梶田進議員質問 長時間勤務となる理由として、授業教科の準備の他、一般事務的仕事が多くあること、小学校では専科教員がいないこと、中学校では部活動の指導などがあると聞いている。

解決するためには、事務職員の配置、専科教員の配置、早朝、土・日部活動の中止などが求められている。

答弁 どの学校も専科教員の配置を求めている。教育委員会、校長会からも提案されている事項で、関係機関に要望しているが、財政的な面から余裕ある人員配属がない。

町内教職員の病気による長期休職の実態はどのようになっているか。また、6ヶ月未満の長期休暇取得者の実態と教職員の健康管理はどのように行なわれているか。

部活動については、やりたいう、やらせたい、やってもいいという、生徒、保護者、教員の3者の意見が合致したとき、大きな力となる。この想いを大切にしたいと考えている。

梶田進議員質問 休職者の実態は、昨年度から2名いたが、今年1名退職したことにより、現在では1名となっている。

答弁 健康管理面は、出退校時に健康不安をはい・いいの形で記録してもらい、産業医との面談の希望も聞いている。

健康不安をはい・いいの形で記録してもらい、産業医との面談の希望も聞いている。その結果、教職員の希望があれば、産業医に相談すること

ができるようになっていく。

梶田進議員質問 近年、嫌煙権の主張が強くなり、公共施設内での禁煙は当たり前となつていく。教職員の健康のみならず、児童・生徒への健康を指導する立場からも、禁煙は実行すべきである。喫煙する教職員がいる場合、児童・生徒の目の届かない場所に、

有害物が除去できる装置を設けた喫煙所を設置すべきではないか。

同報無線・戸別受信機 配布方法の改善を

答弁 施設内では禁煙としており、児童・生徒への影響は無いと考えている。来校者への対応としては、玄関横に灰皿を置いていく。

同報無線・戸別受信機

配布方法の改善を

梶田進議員質問 1992年（平成4年）より同報無線の運用が開始され、09年度までに区加入世帯への配布が原則終了し、10年度から区未加入者の希望世帯への配布がはじめられた。

答弁 現在、住民票の世帯で判断して1世帯1台の配布を行なっている。今後現状を維持していく。

同報無線・戸別受信機は災害の発生、身元不明者の消息のお尋ね、各種情報の発令など生活に密着した情報を住民のみなさんに知らせる重要な手段であり、多くの住民が重要視している。

梶田進議員質問 現在配布しているアナログ方式は生産が中止されていて、故障時の部品調達も困難になってきている。

今後、デジタル化への切り替えが必要となってくるがどのように考えているか。

答弁 現在使用している同報無線設備は20年を経過して老朽化が進んでいる。アナログ方式は生産が中止されており、今後はデジタル対応の受信機しか調達できない。完全デジタル化への移行は、現在使用しているすべてを交換する必要があり、莫大な費用を要することになる。

今後、デジタル・アナログ両方の電波を出せる親局があるので、来年度より整備を予定している。



代表質問を行う梶田進議員（12月5日）